

和歌山

地域面 3 ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL 073(431)1411
FAX 073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026

【広告問い合わせ】 073(423)9291
【購読問い合わせ】 0120-468012

マーク・矢崎

「黒潮の基地」だった湯浅

絵と文・熱田親喜 題字・熱田秦華

熊野古道

みたらくま記

31

戸時代、イワシ漁場を求めて千葉・房総半島への出稼ぎ漁業の起点となったのが湯浅だったという。

郷土史に詳しい湯浅に漁業の町・湯浅を案るせる白方山・勝榮寺町教育長、垣内貞さん 内していただいた。江へ。本堂には見上げる



施無畏寺から見た栖原港(湯浅町栖原)

ほどの大きさの地藏尊、薬師如来、阿弥陀如来、釈迦像が鎮座しており、歴史が感じられた。これらは平安時代から鎌倉初期の制作で、湯浅氏の菩提寺として繁栄したという。それにしては本堂が質素なので、その訳を尋ねると、豊臣秀吉が花見の宴を豪華にするため、当時最も立派な本堂が湯浅にあると聞き、旧来の仏像と本堂を京都の醍醐寺に運ばせて重宝された。

施無畏寺の墓地の中に、関東の漁場を開拓した江戸一の書籍業を営み、「解体新書」などを出版して、医学の進歩に貢献した須原屋の墓もある。書架の支店の一つを営んでいた須原屋佐助は、紙を扱い、「棲原」の屋号を取得。「棲原」の和紙の評価を世界的なものに押し上げて今日に至っている。

船来航時は自費で大砲4門を海岸に設置した大人物だ。その末裔は現在、学者として活躍中とのこと。

施無畏寺の門前には、角兵衛重勝から第10代角兵衛重幹まで、北方海域の漁場開拓と北海道、北方領土の公共事業に尽くしたという。最後に頭国神社鳥居前の「水台」(湛水)の前へ案内していただいた。「寛延元歳(1748年)九月吉日、在関東上総国 御宿 岩和田 岩船浦 等と刻まれており、黒潮による房州と紀州との深い飢饉には難民救済、黒

イワシで繁栄 房総にも

湯浅を去るにあたり、垣内さんは「江戸時代、江戸方面で活躍された人々は天災や飢饉に際し、自分の築いた財産を惜しみなく難民救済に当った。これは隣の広川町の「稲むらの火」で有名な浜口梧陵に通じるものがある」と語られた。

施無畏寺に漁民眠れる春となり 秦華 (次回は3月10日掲載)